

平成 30 年の仕事納めに際して、職員の皆さんへ

時の過ぎるのは早いもので、もう一年の終わりとなりました。

これまで、係長以上の職員に集まってもらい、訓示を垂れる形で仕事納めの挨拶をしていましたが、職員が仕事を中断して集まる時間をより有効に使うために、また、すべての職員にメッセージを伝えるために、仕事納め式を省き、ネットワーク上の文章にて年末の挨拶をすることにしました。内部で回す文書なので、長文になりますが少し細かく書きます。

職員の皆さん、今年一年お疲れ様でした。また、ありがとうございました。

今年もいろいろなことがありました。町制 70 周年記念の年でもありました。特別に華美なイベントはありませんでしたが、それぞれの部署で記念の年をさりげなく、センス良く盛り上げていただけたと思います。

企画政策部では、未来を見据えることが難しい時代に、まちの将来の方向性について共通認識をまとめようと、若者から地域の代表者や学識経験者も含めた議論を経て、期間を 20 年間とする総合計画を策定しました。

総務部では、県と合同で大規模な総合防災訓練を行いました。また、地味ではありますが、歳入の確保、合理的な支出に努めて、より健全な財政を追求しています。

健康福祉部は、医療・介護の専門職の連携や、地域の居場所づくり、地域の助け合いの仕組みづくりに意欲的に取り組んで、目に見える成果を出しています。また、急増する乳幼児の保育や育児相談に果敢に取り組んでいます。

生活経済部は、ごみの減量化、公平性の確保、財政負担の軽減を目的に掲げ、ごみ袋へ課金することとし、86 回もの地区説明会を開催しました。説明会では参加者からいただいたご指摘やご意見を踏まえ、よりわかりやすい説明を心がけました。

建設部では、景観まちづくり、新田地区の区画整理、於大公園再整備など、これまで経験のない困難な課題に挑戦しているところです。また、下水道の公営企業化を進めています。

教育部では、小中学校全普通教室へのエアコン設置や卯ノ里小学校体育館屋根の台風被害の復旧など、迅速な対応を迫られる課題に直面し、なんとか遣り切ろうとしているところです。

以上はほんの一例で、そのほかにも、形としては見えていないけれども、これから結実するであろう多くの努力が行われているものと思います。

さて、ここから注文になりますが。

上で挙げた行政の動きの中でまさか知らないものはないでしょうか？ 皆さんと話をしているときに、他部署のことを知らなさすぎると感じる場合があります。同じ住民の福祉の増進をめざす組織の中のことです。それらは互いに関連していて、それぞれが無縁であることはあり得ません。おまけに、近年、部や課をまたがって協力しなければ解決し辛い課題が

増えていることを認識しなければなりません。

それから、自分が担当として関わっている事業の予算を知らないなんてことはないでしょうか？ 事業はお金があってこそできるものです。何千何百円何十何円の単位まで覚えている必要は全くありませんが、聞かれて書類を探すのではなく、少なくとも何千万円、何百万円、何十万円など、一桁目の数字を頭の中に持っておくくらいの感覚はあって欲しいと思います。お金以外の基本的な指標に関しても同様です。

12月定例議会で議員から、「委託契約や賃貸借契約の解約通知期限など、民間で当然決め事をしているものが抜け落ちているのでは？」との指摘をいただきました。契約は、もめ事が起きないためにあらかじめ決めておくという役目があります。過去の詰めの甘い契約をそのまま踏襲せず、必要な決め事は、様々な事態を想定してキチンと内容に盛り込むようにしてください。仕様書なども同様です。

「結果や状況の分析→問題・課題の抽出→対策を考える」の基本的ステップができていないとの指摘もいただきました。これは、すべての部署に言えることですが、何の脈絡もなく対策が出てくることはあり得ません。前年踏襲や一般的にありがちな対策を根拠もなく安易に採用するのは、科学的ではありません。現状分析に基づいて対策を行い、そして検証し、さらに改善していくのが、PDCAに則ったやり方です。P→Dばかりで、C→Aをおろそかにしてはなりません。

以上、年末に頭に浮かんだことをつらつらと書かせていただきました。

改めて、職員の皆さんに一年の感謝を申し上げますと共に、自らも含めて、一同、一年を振り返り気の付いたところを改め、さらに質の高い仕事ができるよう願いを込めまして、仕事納めの挨拶とします。

それでは、良い年を、迎えましょう。

平成30年12月28日

東浦町長 神谷明彦